

れています。

これらの地層は、常磐炭田ができた頃と同じ新生代、古第三紀に入江につもった地層です。

2. 川原のようすと流水のはたらき

(1) 調べる場所

藤原川、あいやかわばし付近

(2) 川や川原の全体の様子を観察する。

① 土手の上から川原や水の流れなど川の全景をスケッチする。



② 川原は、川が曲がる箇所の内側に

できているか、外側にできているか、別なところでも調べてみる。

(3) 川原において流水のはたらきを調べる。

① ㊸の付近は川幅もせまく、水の流れも急である。10mの長さを取り速さを調べてみる。

また、㊹の付近でも10mの長さを取り、水の流れの速さを調べて、㊸の付近の速さと比較する。

② ㊸付近の川底と㊹付近の川底で、どのような違いがあるか。㊸の付近の川底には、レキがつもっていて砂はないが、㊹付近では砂がつもっている。

このことから、水の流れの速さと、つもる砂や、レキの間にどのような関係があるか考える。

③ ㊸の川底を水中のぞき箱で、川底に沿って砂が下流に流されているようすを観察する。

